

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100144		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホーム石動		
所在地	神埼郡吉野ヶ里町石動3210番地		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年12月3日	外部評価確定日	平成25年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境であり、民家を改築した木造2階建ての、まるで自宅のような温かみのある建物です。地域の一人として、敬老会や総会、年2回のクリーンデイに参加したり、また、事業所の消防訓練の時も地域の方が多数参加して避難の手伝いをして下さったり、畑で採れた野菜のおすそ分けや、散歩の時も気軽に声をかけて下さったりと地域の方との友好関係はしっかりと築かれています。現在グループホームの建て替え建築中ですが、この建築についても、土地探しの段階で、地元で建築してほしいと要望も強くあり、徒歩1分程の場所に建築中です。事業所内では利用者の自立支援を目指しており、理学療法士による専門的なリハビリを行い、身体的な機能の維持に努めたり、同じ事業所内での音楽リハビリやカラオケ、川柳会等のレクリエーションに参加して、利用者同士の交流を盛んに行っています。グループホーム石動の目指すところは、事業所の理念でも唱っているように、地域に根付いた利用者本位のケアであり、利用者各人がその人らしさを発揮できる、自宅に代わる居場所にする事です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は脊振山麓の自然豊かな集落に位置し、今年で開設後10年が経過している。古民家改修型の事業所の内外には、心むむ昔馴染みの雰囲気漂っている。代表者は開設時から、グループホームの運営には地域密着が重要であることを認識し、当初からそのことを理念にも謳い、利用者と共に地域交流に取り組み、今では、地域の一人としてしっかりと根付いている。近隣の人達とは日常的に物心両面にわたる交流があり、地域の総会や敬老会等には利用者と一緒に参加し、また、事業所の災害対策訓練には多くの近隣者の参加協力が得られている。職員は、最後まで安心してその人らしく暮らして頂くことを目指し、食事や排泄を始め、利用者の残存機能の維持と向上に繋がる支援を図っている。同一法人の理学療法士によるリハビリや、音楽療法等を取り入れたり、利用者の楽しみでもある外出支援も積極的に行っている。代表者は、良い介護の提供には、人材育成が基本と言ひ、職員教育に取り組んでいる。現在の事業所の側に新しい事業所を建築中であり、益々の発展を期待したい。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスをふまえた理念を作り、話し合いに基づき、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。	利用者が、地域の中で最後まで、安心して、本人本位の暮らしが続けられる支援を目指した理念を掲げている。職員の採用時には、代表者や管理者が理念を説明し、また、毎朝の申し送り時に唱和をして共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入し区費も払っている。地域の敬老会、総会、清掃活動に参加し、また事業所の、ふれあい祭り、防火訓練に参加してもらっている。	日常的に近隣者の訪問や野菜等の差し入れがなされ、利用者も顔馴染みである。地域の敬老会や総会、清掃活動等には利用者も一緒に参加している。また、事業所の行事にも多くの住民の参加協力が得られており、事業所は地域の一員として根付いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は地域の方参加の介護教室、敬老会の講演、介護の在り方の話し合いを持っている。清掃活動、防火訓練等、見せる介護をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進委員会を開催し、運営実態、や課題又ふれあい祭り、防火訓練等、委員の方が参加され活発な意見を交わし運営に反映されている。研修会に参加され、発表してもらっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族や区長、民生委員、老人クラブ代表、行政職員等の参加を得て開催されている。会議では事業所の運営状況や行事報告等に加え、参加者からも積極的な意見や質問等があり、サービス向上に繋がる有意義な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との交流を密にし、町長、議長等、敬老会、ふれあい祭りに参加して頂き、利用者の失踪時の捜索、利用者の紹介などを受け、相互に協力し連携を密にしている。	行政の担当者とは、日頃から密に情報交換や相談等を行っている。また、運営推進会議以外の法人の行事にも行政から参加を得たり、町主催の介護教室や集会等の講師に職員が依頼される等、協働関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の各部屋や玄関には施錠は無く、職員による見守り徹底し、帰宅願望時にはついでには制止することなく、さりげなく声掛けをし、外出時は同行する。外出は地域の方の通報もある協力してもらっている。	身体拘束に関する勉強会等を行い、拘束のない支援に取り組んでいる。ベッド柵も安易に使用せず、必要時には家族の許可を得ている。玄関は日中は施錠しておらず、職員の見配り気配りで見守っており、外出気配時にも抑止等せずさりげなく付き添っている。また、地域住民による見守りへの協力も得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止について研修会、勉強会、カンファで学ぶ機会を持ち、利用者の虐待が見逃されないように注意を払い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修会や勉強会に参加し日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、面会者、家族の関係者とコミュニケーションを取り合い、それらを出発点として支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は重要事項について十分な説明、話し合いを行っている。家族、利用者の、疑問点、不安を含めて理解、納得を得るように、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々家族の面会時や各行事等で常に問いかけなんでも気軽に話して下さるように、コミュニケーションを図っている。又家族会の中には、アンケート実施したり、玄関に意見箱の設置出された意見、要望等はミーティングにて話し合い、反映している。	職員は、家族が気軽に話せる雰囲気作りを心し、面会時や家族会、行事等の折に必ず声かけをし、意見や要望等を聞いている。家族会ではアンケートも実施している。出された意見や要望等は職員間で話し合い、サービス向上に活かしている。玄関には意見箱も設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員の疑問や意見、要望を言いやすい職場作りに努め、通常勤務や月1回のカンファレンスにて行事等、反省会を行い、職員の意見を聞き、反映している。また、年に2回、職員の個人面談を行っている。	代表者や管理者は日頃から職員との意志の疎通を図っている。職員は日常の業務の中や職員会議で意見や提案等を積極的に行っており、運営にも反映している。また、年に2回、代表者等による個人面談もなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の勤務態度、業務の自己評価基づく職員との面談や業務管理シート等により把握し人事考課、賞与に反映させ職場の環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や管理者は職場で実地指導などを実施、資格取得の為、外部研修を始め法人内でも新人、中堅研修を取り入れ一人、一人のケア質を高めていくように努め勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の職場と合同勉強会又は講師を招いて、学びサービス向上に努めている。研修先にてグループトークや訪問にて、他の事業所と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望、不安点を利用者や家族等から傾聴し管理者、ケアマネージャー、職員と共に把握し必要とされる支援を行い、安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、管理者やケアマネージャーが家族と話し合いを行い、また、施設内見学をして頂いている。入所当初は、家族訪問をして頂き、利用者の状況を理解し手頃くよう努め納得して入所されている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネージャーが本人、家族と話し合い、必要とする支援を見極め、職員との介護を共有し、法人内外のサービスの利用を含めサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者より料理や畑仕事等で教えて頂くことが多く、職員と利用者がお互いに支え合える関係が日ごろより見られ、関係を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念を基本とし、家族との連絡をよく取り、面会にも来て頂き、受診・外出や家族会等の行事の機会において共に本人を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の気持ちを尊重し、家族の協力を得て、自宅への外出、外泊の支援をしており、人や場所との関係が途切れないように行っている。	職員は利用者の馴染みの人や場所等を把握し関係の継続を支援している。お墓参りや行きつけの店と一緒に出かけたり、馴染みの美容師に出張整髪を依頼している。自宅への外出・外泊や親類の行事等への出席も家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりを把握し、座席の工夫や家事を行う上で分担して行えるように工夫し、利用者同士が関われるように努めている。また、不足しているところを補ったりと支え合っている関係が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が退所されてからも、家族と連絡をとって、相談に応じたりしながら関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、利用者1人1人の思いや希望・意向を見出し把握したり、家族からの情報収集に努め、できる限り希望に応じた対応ができるように努めている。利用料等の金銭面等の相談に応じ、他施設利用等も検討している。	日常の会話や行動から希望や思いを把握している。意志の疎通が困難な場合には、表情や家族からの情報等から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人、知人等から、これまでの生活歴や現況等、多くの情報を収集できるように、また日常会話の中からも把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の気持ちに寄り添いながら、1人1人の希望、心身の状況の把握に努め、毎日の申し送り、ケース記録、カンファにおいて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や意欲向上、意思の尊重を念頭に置き、家族の意見や希望も反映しながら、カンファレンスで話し合い、情報を共有し介護計画を作成している。	本人や家族の意向を確認して、関係者で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。3ヶ月毎に評価、担当者会議(家族同席)を行い、現状に添った計画で支援している。状態に変化が生じた時には、臨機応変に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気付きはケース記録と介護計画に基づいたケアチェック表で記録している。また排泄チェック表を作成し、毎日の実践に活かしている。カンファレンスでの意見交換にて情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスではなく、臨機応変に対応できる支援を行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で催される行事への積極的な参加、地域の商店や医療機関の利用を通し、地域住民の一人として地域に根付いた安全で豊かな日常生活を行えるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に、ご家族の希望される医療機関で行っているが、地域の医療機関とも看護師等により、主治医との情報交換も充分に行っており、緊急時の往診体制を図っている。	本人や家族の希望されるかかりつけ医の受診を支援している。通院は家族の付添を基本としているが、状況に応じて職員が同行し、適切な受診ができるように支援している。協力医療機関の内科医や歯科医の定期的な訪問診療が行われたり、緊急時の往診体制も確保できている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の勤務を通して健康状態の把握に努め、個々の利用者に対する気付きや、容態の変化等を看護職員に情報提供し、迅速かつ的確な処置が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院されたときに、ご家族の意見を尊重しながら安心して適切な治療を受けられるように、出来るだけ入院先を訪れ、利用者の様子を伺い、また医師・看護師等と連携するなど支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に重度化した際の介護“ターミナルケア”について明記【必要な人には終末ケアの同意書を書いてもらっている】。ご家族・主治医・看護師と話し合いを持ち、看護・介護についての方針を共有し、地域医療機関や地域の関係者と共に支援している。	利用開始時に、本人や家族に重度化や終末期の事業所で可能な対応を説明し、意思の確認を行っている。重度化や終末期の支援を要する場合には、段階に応じて家族の気持ちを確認し、主治医等と方針を共有して支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は定期的に消防署で「救命講習会」参加し、『AEDの取り扱い方』『心臓マッサージ』『人工呼吸法』等の知識・技能の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の避難訓練は多数の地域住民に参加して頂き、年に2回地域と一体となった訓練(昼夜火災を想定)を行っている。	毎年2回、消防署の協力を得ながら、昼夜の火災を想定した通報、消火、避難の訓練を実施している。訓練には多数の近隣住民の参加協力も得られており、避難介助や見守り等にあたってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の個性を生かした支援を行う。排泄介助の際は本人の羞恥心を損なわない様にする。園便りや研修資料への使用の可否は、本人及び家族等の同意を得、プライバシーを尊重した介護を行う。	職員は笑顔で利用者を尊重した言葉かけや対応をしている。地域便りの写真や研修会のスライドでは、家族の許可を得たり、プライバシーを損ねないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要求、希望を取り入れ支援を行う。職員は和やかな雰囲気作りに努め、利用者とのコミュニケーションを図り、意見が出るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の意見を尊重した対応を行っている。また、日常の生活に刺激を与える目的で外食や行事参加を促し、より多くの利用者の笑顔を引き出す支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約2か月ごとの美容師の訪問にて、散髪の実施。また、希望があれば、パーマなども可能であり一人一人の個性を大事にしている。その他、男性は髭剃り、女性は爪(ネイルケア)まで、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を引き出す目的で、食事の準備や後片付けなど、職員と共に行っている。特に女性の利用者は昔を思い出され、楽しく生きがいに繋がっている。外出の機会を設け、花見などに置いては、手作りの弁当を開き楽しみながら食べて頂いている。	職員は利用者の力を活かし、食材の下拵えや味見、盛り付け、食器の後片付け等と一緒にしている。食事の時は、職員も一緒にテーブルを囲み同じものを食べている。利用者が、できる限り自分で食べられるように、個々のペースを大切にして支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を全職員が把握出来る様になっている。法人内の栄養士の献立を参考にしたり研修で指導を受け調理法や栄養バランスに配慮している。1日1食は玄米を使い、便秘解消に努め。園内の畑で収穫した作物を使い季節感を感じる様配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人一人に応じた口腔ケアを行い、義歯の洗浄支援も行っている。上手く行えない利用者には仕上げのみを介助し、時間が掛かっても自力で行なっていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に基づき定時トイレ誘導、外出前後の声掛けを実施。利用者の排泄状態を把握し失禁、パット、紙パンツの減少に努めている。	排泄パターンや習慣等を活用し、日中は全員をトイレでの排泄で支援し、自立や紙パンツの使用軽減に努めている。3人の利用者が昼間は布製下着で過ごされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一食、昼食には玄米を取り入れ、食物繊維の多い食材を使用するよう心がける。水分補給、牛乳、バナナ、ココア等摂取して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一日おきの入浴を基本に、利用者の状況、要望で毎日入浴を実施。又入浴しない日は清拭、足浴を実施し、清潔保持に努めている。皮膚の保湿保持の為塗布実施。	基本的には、一日置きの入浴としているが、希望があれば毎日でも可能である。冬季には、脱衣室や浴室を前もって暖房し、安全な入浴環境に配慮している。入浴を拒否される場合には、気分転換を試みたり、担当者を交代する等工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレク、ドライブ等活動的に過ごして頂く。利用者の体調や状況によって昼寝や休息をして頂く。季節に合った温度、寝具の調節をし入眠を促している。寝具は週一回交換し清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人々の服薬説明書と受診後のNS記録への記入をすることで、薬の変更にも職員間でコミュニケーションを図り対応、理解する。Dr. NSとの相談のうえ症状の変化の確認をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の生活歴や残存能力を生かしながら家事や畑仕事を一緒に行い楽しさの共有、生きがいのある毎日を過ごせるように、又カラオケ、買い物、ドライブ、レク等を取り入れ共に楽しく過ごす支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日一回は外出する機会を設け、買い物、ドライブを実施。季節の行事見学、花見見学や弁当を持っての外出等を実施。利用者の希望や職員からの提案に沿っての外出も支援実施している。	利用者の体調等に合わせながら積極的に外出支援を行っており、毎日一回は外出の機会を作っている。同一法人のデイサービスでの音楽療法やカラオケ、リハビリ教室等への参加や、買い物、散歩に出かけている。また、四季折々の花見や行事等にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金を所持すると安心される方のみ、自己管理して頂いている。 能力に応じて利用者が買い物できるように、職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望に関しては、本人の希望に添えるように対応。手紙・年賀状は利用者の能力に応じて作成、代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には転倒防止のため手すりを設け、清潔保持のため毎日清掃を実施。月一回の清掃日を決め、徹底を図っている。季節の花を活け、季節感を味わっている。	古民家改修型の事業所の内外は、昔馴染みの心和む家庭的雰囲気漂っており、きちんと清掃され、安全や衛生面にも配慮した環境作りがなされている。玄関やトイレ等には季節の花も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で過ごして頂く利用者の『輪』に職員も参加し、利用者に快適に過ごして頂くと共に体調変化にも配慮。 面会の時は必要に応じ、利用者の部屋で面会。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室がわかるように、顔写真を掲げている。居室への持ち込みは愛着を持たれていた品物を、自由に制限せず居心地よく過ごせるように配慮している。	職員は家族に利用者の馴染みの品の持ち込みを働きかけ、居心地の良い居室作りを支援している。居室には、家族の写真やお位牌、飾り物等が見受けられる。それぞれの居室からは、庭や周りの光景が眺められ、季節の移ろいを感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室等への手すりを設け、安全に移動できるように配慮。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない